

溶連菌感染症

症状

- ・溶血性連鎖球菌(略して溶連菌)という細菌による感染症です。
- ・主な症状は、発熱やのどの痛みですが、体や手足にかゆい発疹がでることもあります。
- ・病初期には吐き気を伴うこともあります。
- ・感染してからだいたい2～4日で症状がでます。

治療

- ・この感染が疑わしい場合は迅速検査(10分以内で結果がでます)などで確認し、抗生物質の内服で治療します。
- ・お薬を飲み始めると、1～2日で熱が下がり、のどの痛みもやわらぎますが、すぐに止めると再発したりするので10～14日間飲み続ける必要があります。
- ・感染後3～4週後に心臓弁膜に障害などを起こすリウマチ熱や、急性糸球体腎炎といった合併症を起こすことがあります。
- ・感染後2～4週で検尿をして血尿がでていないか確認します。
- ・溶連菌感染症は、繰り返しかかることもあります。
- ・大人になってもかかります。家庭でのどの痛みが強い方は注意が必要です。

家庭で注意すること

- ・食事はのどに刺激の強いものは避け、のどごしがよい食べ物にしてあげてください。
- ・熱が下がれば、お風呂に入っても特に問題はありません。

登園・登校の基準

- ・登園、登校は抗生剤内服後24時間経てば可能とされています。
- ・許可証が必要ですので主治医に相談してください。

急患診療センターを受診するめやす

・お薬(抗生物質)を飲み始めて2～3日たっても熱が下がらず、のどの痛みも消えないようでしたら、医療機関を再受診するか、急患診療センターを受診してください。お薬が効いていないこともありますし、ほかの感染症が合併している可能性もあります。

新潟市急患診療センター(電話025-246-1199)
<http://www.niigata-er.org>